

第 1 章

策定にあたって

1 計画策定の趣旨

文化芸術は、市民にゆとりと心の潤いをもたらし、心豊かな活力ある市民生活と魅力あるまちづくりの実現に寄与するものです。

豊かな感性や創造性によりはぐくまれた文化芸術活動は、市民の生活様式や生活向上意識により変容し、様々なスタイルで市民生活に密着しています。

現在、本市の人口は、人口減少社会において、微増を続けており、60万人に達するような状況ではありますが、平成32年度を境に微減に転ずると予想されています。

そのようななか、本市に係る課題を解決し、多様な市民のニーズに的確に対応するためには、本市の資源を効果的・効率的に活用し、多くの人から「選ばれるまち」を目指すことが必要です。

文化芸術の分野においては、市民の多様な文化活動への意欲を高め、自己実現を叶えるための支援をし、一人ひとりの活動の自主性を尊重しながらもお互いに交流し、理解しあえる市民生活を目指します。

一人ひとりの自己実現は、高齢化社会が進む昨今において、いつまでも健康で元気に過ごすための生きがいや交流作りの役割を担います。また、少子化社会の課題において、今を生き続ける文化芸術を次世代につなげることは、伝統の継承や新たな発展につながる役割も担うことができるものと考えます。

市民の文化芸術活動が活発に行われ、誰もが等しく、文化芸術に触れ享受できることこそが、私たちの役割と考え、総合的に積極的に推進するため、「文化芸術基本計画」を策定するものです。

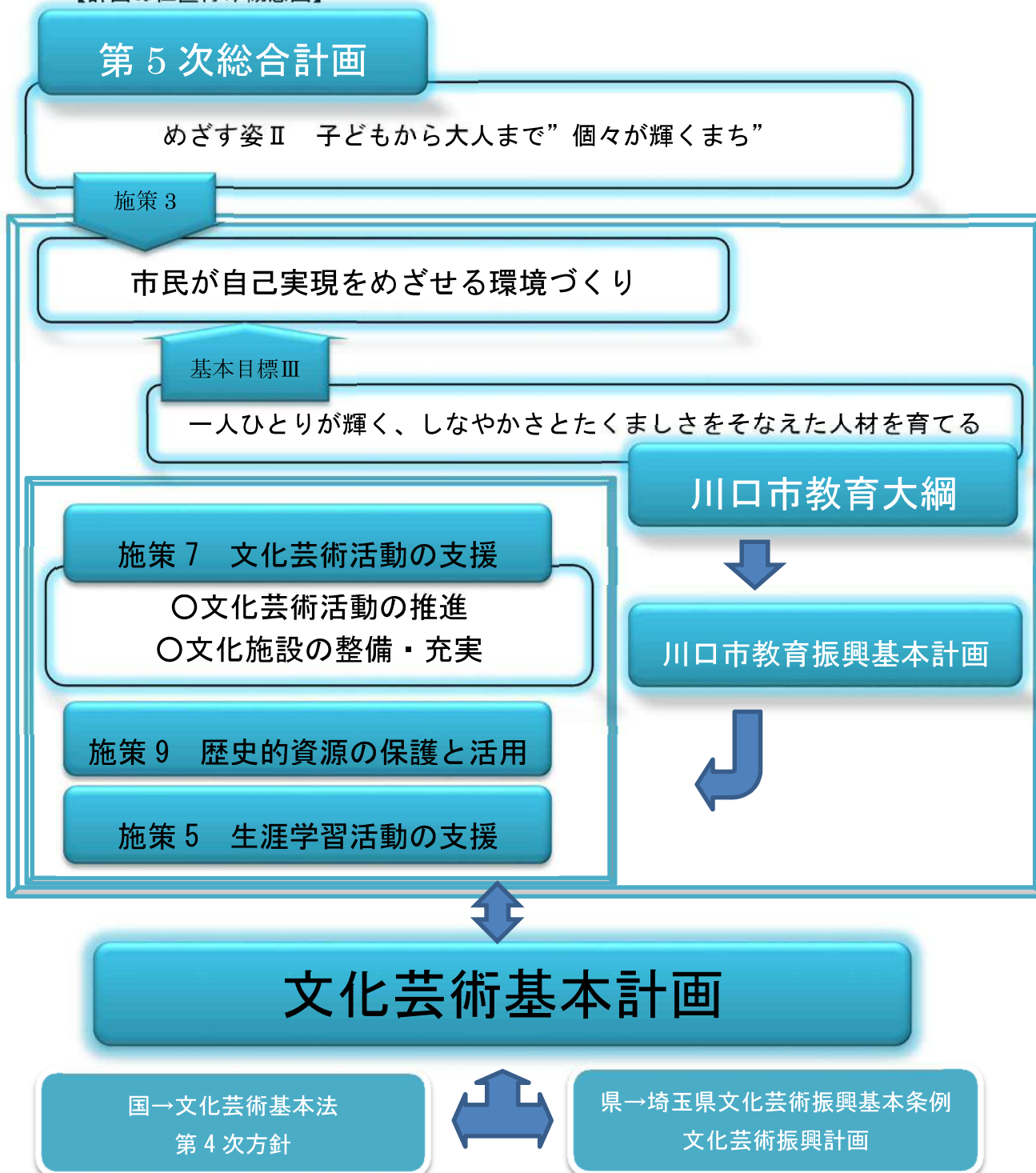
2 計画の位置付け

計画は、本市の文化芸術の施策を総合的かつ一体的に推進するための基本的な計画と位置付けます。策定にあたっては、「第5次川口市総合計画」を上位計画とし、「川口市教育大綱」を上位理念とし、「川口市教育振興基本計画」を文化芸術分野の関連計画と位置づけ、それらの施策を踏まえ、行政各分野とともに十分な連携を図ります。また、経済産業などの社会状況や市民の多様な生活様式の変化、ニーズを反映するものとし、そのため、この「川口市文化芸術基本計画」は、「第5次川口市総合計画」及び「川口市教育振興計画」の進行状況などと整合性を図りながら必要に応じ見直しをすることとします。

「第5次川口市総合計画」のめざす姿Ⅱ「子どもから大人まで”個々が輝くまち”」は文化芸術分野の理想の姿として位置づけられています、さらに、理想の姿を実現するものとして、施策を4本掲げており、そのひとつとして、施策の3「市民が自己実現をめざせる環境づくり」を位置づけています。これを受け「川口市教育大綱」では、目指

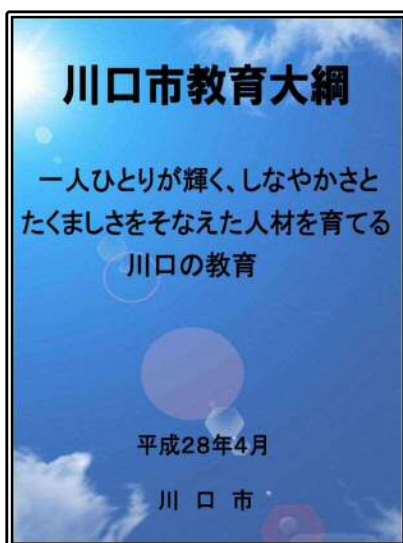
す姿Ⅱを実現するものとして、5本の基本目標を掲げており、総合計画との整合性を保持しています。「川口市教育振興計画」では、この基本目標5本にあわせ、各施策が位置づけられています。そのうち、文化芸術に関連するものとして、「施策7文化芸術活動の支援」、「施策9歴史的資源の保護と活用」、「施策5生涯学習活動の支援」を示しています。本計画では、これらの施策と有機的に関連するものとし策定しています。

【計画の位置付け概念図】



3 計画の期間

計画は、「第5次川口市総合計画」や「川口市教育振興基本計画」との関係性を保持しながら、計画期間を5年とし、第1期を平成31年度～35年度とします。その後、目標達成状況を鑑みて内容を精査し、第2期を36年度～40年度とするものです。第3期以降も同様とします。この計画は、「川口市文化芸術審議会」において進行管理を行い、取り組みの見直しや改善を図り、具体的なアクションプランを策定します。



第2章

現状と課題

1 文化行政を巡る背景

(1) 策定の経緯

本市においては、平成28年度から平成37年度を計画期間とした「第5次川口市総合計画（以下、「総合計画」という。）」を平成28年4月に策定し、その中で「文化芸術」の分野については、めざす姿Ⅱとして「子供から大人まで“個々が輝くまち”」を掲げ、施策3「市民が自己実現をめざせる環境づくり」を定めています。

また、川口市教育委員会では、平成28年4月に「川口市教育大綱（以下、「大綱」という。）」を策定し、総合計画の施策と整合性を保持しながら、大綱には、施策7「文化芸術活動の支援」を中心に、施策5「生涯学習活動の支援」及び施策9「歴史的資源の保護と活用」などを掲げています。

この大綱に基づき、平成28年度から平成32年度を計画期間とした、「川口市教育振興基本計画（以下、「振興計画」という。）」を平成28年4月に策定しています。大綱の施策にあわせ、目指す方向性を示し、具体的な取組を明記しています。この振興計画は、総合計画策定と同時進行で策定し、市民の意識調査等による意見の反映も、同時に実施したとみなしています。

このようななか、文化芸術分野については、国の「文化芸術振興基本法」が一部改正され、「文化芸術基本法（以下、「基本法」という。）」の名称となり、平成29年6月に公布されました。この基本法では、更なる文化芸術を推進するための基本となる理念が整えられ、基本施策が追加されています。

「基本法」の理念は、誰もが自主性・創造性を十分に発揮できるよう推進していくことにあります。この基本法が改正される前の平成27年5月に文化庁は「文化芸術に関する基本的な方針（第4次）（以下、「基本方針」という。）」を閣議決定しており、この基本方針では、東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け文化プログラムの推進としてわが国が目指す文化芸術を示しています。

一方、本市では平成28年3月に市議会議員の議員提案条例として「川口市文化芸術振興条例（以下、「振興条例」という。）」が制定され、本市独自の理念を掲げています。その背景には、埼玉県においても県域他市における文化芸術の振興を目指す条例が制定されたことが契機となっています。

平成21年7月に「埼玉県文化芸術振興基本条例」が定められた後、平成23年3月には「埼玉県文化芸術振興計画」が策定され、文化芸術の全般に対する事業の推進や文化団体への支援の充実等の目標が明確になっています。

これらを受け、本市においても、振興条例の制定後、第6条に示すとおり「総合的かつ計画的に推進するため文化芸術基本計画を策定するもの」とされています。

(2) 国・県の動向

国は、平成13年に「文化芸術振興基本法」を公布し、文化芸術を振興する趣旨の施策を示し、同年発出の「基本方針」ではその指針及び実践的取組を定めています。現在までにその基本方針は4回の改定を重ね、毎改定ごとに、その実施内容が多種多彩に変容してきました。

前述のとおり、改正された「基本法」の内容は、今まで各分野に対する施策を、「振興する」としていたものが、「推進する」という言葉に代わり、より行政の主体性を広げたほか、各施策の詳細な取組等は追加事項が大幅に増えたものとなっています。

「基本法」前文に追加された趣旨は、「文化芸術の振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、その他の各関連分野における施策を法律の範囲に取り組むこと」が言及され、更には、「文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展及び創造に活用すること」が掲げられました。

改正の概要としては、基本理念を改めるとともに、文化芸術団体の役割や関係者相互の連携及び協働並びに税制上の措置を規定するものとされています。

更には、芸術、メディア芸術、伝統芸能等の必要な施策として、物品の保存、展示、知識及び技能の継承、芸術祭の開催などに対する支援が追加されました。また、各地域における文化芸術を通じた地域の振興をはかることを推進すること、海外におけるわが国の文化芸術に関する現地の言語による展示公開などが加わり、さらに、芸術家の養成及び確保を図るため教育訓練等の人材育成への支援などが盛り込まれています。特に、これまでに無い視点として、東京オリンピック・パラリンピックを契機に、レガシーの創出を文化的側面で推進する旨が加わったことが特筆すべき点です。

県は、「条例」の公布を機に、前述のとおり「埼玉県文化芸術振興計画」を策定し、平成28年3月に、平成28年度から平成32年度までを計画期間とした次期(2期目)の計画を策定しています。この計画では、「2020年東京大会に向けた文化プログラムの実施とレガシーの創出」、「文化芸術をつなぎとして人と地域の活力を創出」、「未来を切り拓く若い世代を文化芸術の担い手として支援」などの視点を据えて新たな戦略を定めています。

県内各地域に根付いた文化資源を有効に活用ができるよう、また、文化資源の活用が地域づくり、その地域に根ざした人材の育成が独自の文化芸術の発展につながるよう、実践的プログラムを定めています。

(3) 文化芸術を巡る社会情勢

少子高齢化社会への抵抗

すでに問題視されている少子高齢化社会への危惧は、社会情勢に大きく影響を与える課題ですが、文化芸術分野においても、地域コミュニティの希薄化や文化芸術の担い手の減少などが問題として挙げられています。地域における人と人との結びつきは、文化芸術活動を進展し、また、世代間の交流が若手の人材育成につながるものとして求められています。

IOT^{注1}化・AI^{注2}化時代及びグローバル化時代の到来

情報通信技術や人口知能の急速な進展は、一部の市民に影響を与えるものではなく、近い将来、誰もが等しく、その恩恵を受ける時期が到来することが予想されます。文化芸術分野においても、情報通信技術が活動の情報収集や発信における急激で激しい変化をもたらしています。また、囲碁や将棋などの娯楽文化にすでにAIが参入しているように、他の文化芸術の営みにAIが参入する状況も遠い将来ではないように思われます。

これまでも、わが国の文化は、諸外国に向け発信され、高い評価を受けながら展開されてきています。国内外における文化芸術の相互交流は、わが国の文化資源を再認識できる貴重な機会にもなっています。本市においても、市内における発信だけではなく、世界に向けた発信によって再評価されることにより、地域産業や振興につながるものとして求められています。

東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラム

2020年の東京オリンピック・パラリンピックは、スポーツの祭典であると同時に文化の祭典でもあります。beyond2020プログラム、東京2020文化オリンピアードなど、文化庁が定めたプログラムは、大会終了後もレガシーとして、その地域の独自性を保持したまま継続的につながる文化事業として実施することを求められています。



注1 IOT（インターネットオブシングス）あらゆるものがインターネットを通じてつながることによって実現するサービス

注2 AI（アブリシエイティブ・インクワイアリー）人間の知的営みをコンピュータ上の人間同様の知能に実現させようという試み

2 市民意識調査からの現状と課題

本計画を策定するにあたり、文化芸術に関する市民の意識調査については、本市の施策の基になっている総合計画の進行管理や計画をより良いものにするための市民からの評価や意見が反映されている「総合計画のための意識調査」を採用するものです。

文化芸術の分野は、市民の利便性や安全性に直接的に関わるものではないため、市民の意識としては重要度が低く出る可能性はあるものの、心を豊かにする市民生活の上では欠かせないものであり、満足度に大きく影響するものであると考えています。そこで、平成29年度「総合計画のための市民意識調査」の文化芸術に関わる部分を抜粋し、分析をしました。

この調査は、平成29年6月に住民基本台帳を基に無作為抽出した市内在住で18歳以上の男女5,000人を対象に実施したもので、有効回答数は1,822、有効回答率は36.4%です。

(1) 現状

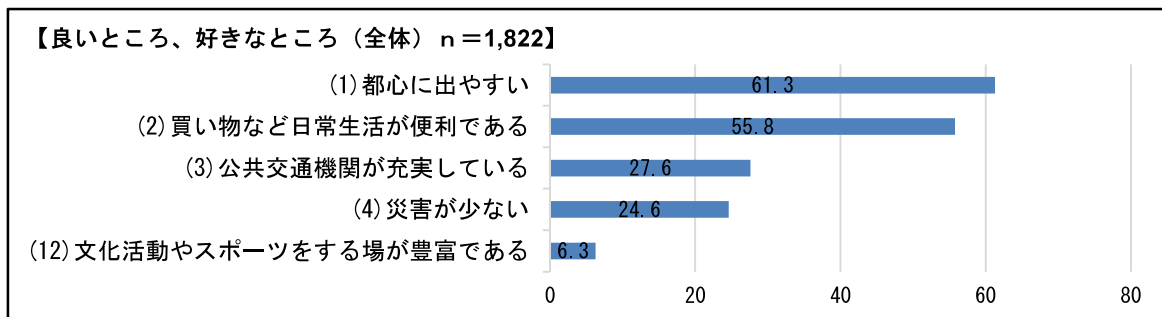
「川口市の良いところ」「川口市の良くないところ」から（20項目のうち3項目まで選択）

調査結果によると、「川口市の良いところ、好きなところ」の設問において「文化活動やスポーツをする場が豊富である」と回答した方は、全体では6.3%と20項目のうち12番目であり、他の項目と比べ低数値を示しています。（グラフ1）

詳細をみるとその中でも、男女・年齢別では、特に男性の18～29歳の方が13.2%、65～74歳の方が11.8%と女性や他の年齢層と比べ、全体的に5ポイント以上の差がある高数値を示しています。また、男女とも30～39歳の年代が低数値を示しています。同年代による文化活動やスポーツの場の活用度が高い可能性があります。（表1）この質問では地域別の顕著な差はありません。

グラフ1

単位：%



※ () 内数値は%の高い順の順位を示しています

第2章 現状と課題

【良いところ、好きのところ（男女・年齢別）】

単位：％

表1	全体	18～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65～74	75以上
文化活動やスポーツをする場が豊富である（男）	6.3	13.2	1.9	7.5	8.8	4.1	11.8	3.5
文化活動やスポーツをする場が豊富である（女）		3.3	1.6	4.6	5.6	9.6	7.2	6.8

上記に対する質問として、「川口市の良いところ、嫌いなところ」の設問では、「文化活動やスポーツをする場が乏しい」と回答した方は、全体では10.2％と20項目のうち7番目であり、他の項目に比べ高い数値となっています。（グラフ2）

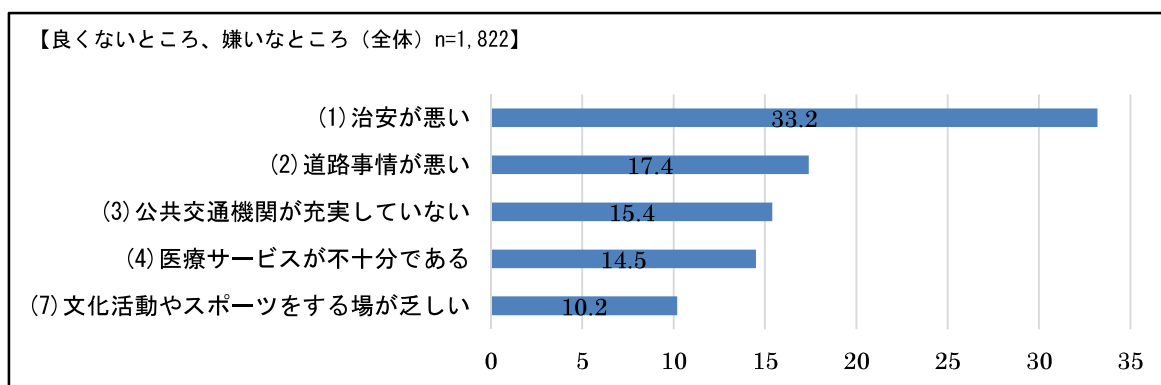
詳細をみると、男女・年齢別では、男性の18～29歳の方が17.1％、65～74歳の方が16.0％と女性や他の年齢層と比べ5ポイント以上の差がある高数値を示しています。これに対して女性は、年齢別での小差となっています。（表2）

次に、勤務地別にみると、埼玉県・東京都以外に勤務している方が10ポイント以上の差のある25.0％と高数値を示しています。（表3）

文化芸術の場としては、全体的に豊富と感じる値は低く、乏しいと感じる値が高く示されています。

グラフ2

単位：％



※（）内数値は％の高い順の順位を示しています

第2章 現状と課題

【良くないところ、嫌いなところ（男女・年齢別）】

単位：％

表 2	全体	18～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65～74	75 以上
文化活動やスポーツをする場が 乏しい（男）	10.2	17.1	9.4	9.0	13.2	14.3	16.0	7.0
文化活動やスポーツをする場が 乏しい（女）		5.7	8.4	9.1	10.6	8.2	11.4	6.8

【良くないところ、嫌いなところ（勤務地別）】

単位：％

表 3	全体	川口市内	埼玉県内	東京都内	埼玉県、東京都 以外の県
文化活動やスポーツをする場 が乏しい	10.2	9.4	11.3	11.0	25.0

「川口市の好きな場所、もの、行事」から（29項目のうちいくつでも選択）

調査結果によると、「好きな場所、もの、行事」の設問において「川口総合文化センターリリア」と回答した方は、全体では29項目中4番目で、28.0%と他の生涯学習・社会教育施設の中で中央図書館に次ぐ高数値を示しています。一方、「アートギャラリー・アトリア」と回答した方は、全体では23番目で、3.5%と他の生涯学習・社会教育施設に比べて、特に低数値を示しています。（グラフ3）

詳細を見ると、「川口総合文化センターリリア」と回答した方のうち、男女・年齢別では、男性の75歳以上の方が36.0%、女性の50歳以上の方が高数値で下表のとおりです。男女共に年齢が高くなるにつれ数値が高くなる傾向があります。特に、65歳以上からの利活用度が高いことが予想されます。「川口総合文化センターリリア」、「アートギャラリー・アトリア」ともに女性が好きな場所としての選択が高くなっています。（表4）

次に、勤務地別にみると、「川口総合文化センターリリア」は市内が低いのに比べ、市外の値が高く、交通の利便性が高い施設であることや、規模が大きい点などが利点となっていますと予測されます。埼玉県、東京都以外の県が33.3%と高数値を示しています。一方、「アートギャラリー・アトリア」は、埼玉県、東京都以外の市外での認知度が低いことが見受けられます。（表5）

次に、地域別にみると、「川口総合文化センターリリア」は横曽根地域37.2%、南平地域33.3%、新郷地域の方が33.3%、「アートギャラリー・アトリア」は中央地域5.8%、横曽根地域6.3%と共に高数値を示し、施設から離れている地域の方の数値が低いことが見受けられます。（表6）

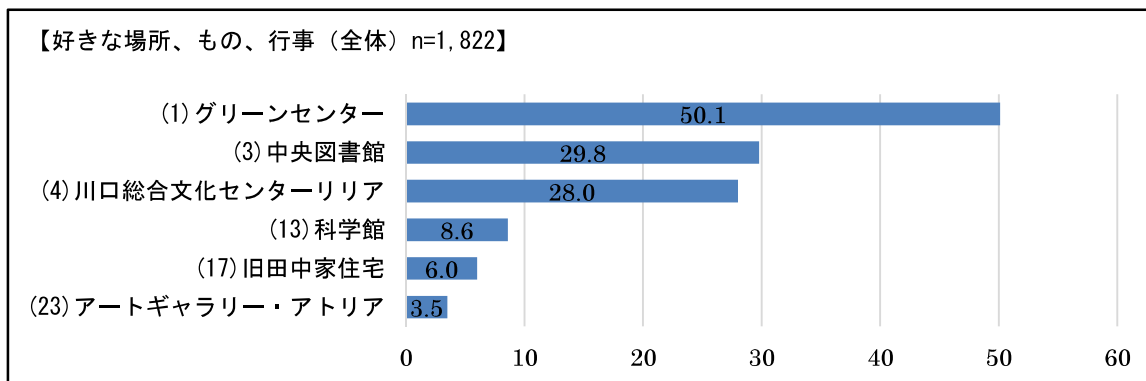
このことから、川口総合文化センターリリアは男女共に年齢が上がるほど好まれる傾向があり、特に、女性はこの傾向が顕著に現れています。また、川口総合文化

第2章 現状と課題

センターリリア、アートギャラリー・アトリア共に隣接している地域から好まれている傾向が見受けられます。

グラフ3

単位：％



※（）内数値は％の高い順の順位を示しています

【好きな場所、もの、行事（男女・年齢別）】

単位：％

表4	全体	18～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65～74	75以上
中央図書館（男）	29.8	30.3	25.5	30.8	31.6	34.7	20.2	20.9
中央図書館（女）		36.9	29.8	34.7	32.2	34.2	27.5	24.6
川口総合文化センターリリア（男）	28.0	14.5	9.4	21.8	27.9	24.5	26.1	36.0
川口総合文化センターリリア（女）		18.9	13.6	23.7	33.9	32.9	48.5	55.9
科学館（男）	8.6	3.9	9.4	12.0	9.6	12.2	1.7	2.3
科学館（女）		8.2	13.6	15.1	6.7	9.6	6.6	2.5
旧田中家住宅（男）	6.0	1.3	0.0	3.0	2.2	10.2	5.9	16.3
旧田中家住宅（女）		4.1	2.6	6.8	7.8	4.1	8.4	9.3
アートギャラリー・アトリア（男）	3.5	0.0	1.9	2.3	3.7	2.0	0.0	1.2
アートギャラリー・アトリア（女）		0.8	4.7	6.4	4.4	5.5	3.6	3.4

【好きな場所、もの、行事（勤務地別）】

単位：％

表5	全体	川口市内	埼玉県内	東京都内	埼玉県、東京都以外の県
中央図書館	29.8	25.0	28.2	38.7	36.1
川口総合文化センターリリア	28.0	22.6	22.6	21.0	33.3
科学館	8.6	10.7	9.6	8.6	16.7
旧田中家住宅	6.0	7.7	3.4	3.5	5.6
アートギャラリー・アトリア	3.5	4.2	3.4	3.0	5.6

第2章 現状と課題

【好きな場所、もの、行事（地域別）】

単位：％

表 6	全体	中央	横曽根	青木	南平	新郷	神根	芝	安行	戸塚	鳩ヶ谷
中央図書館	29.8	52.2	55.2	35.0	42.9	22.2	13.6	18.6	11.3	16.9	19.8
川口総合文化センターリリア	28.0	31.9	37.2	27.8	33.3	33.3	25.9	25.9	21.7	24.3	19.3
科学館	8.6	7.2	7.6	10.9	9.5	2.0	6.1	9.1	5.7	9.0	14.0
旧田中家住宅	6.0	4.3	5.4	6.4	9.0	8.1	5.4	5.0	4.7	2.6	7.7
アートギャラリー・アトリア	3.5	5.8	6.3	3.8	3.2	1.0	2.7	3.2	1.9	2.1	1.9

「川口市の状況や取り組みについての実感」から

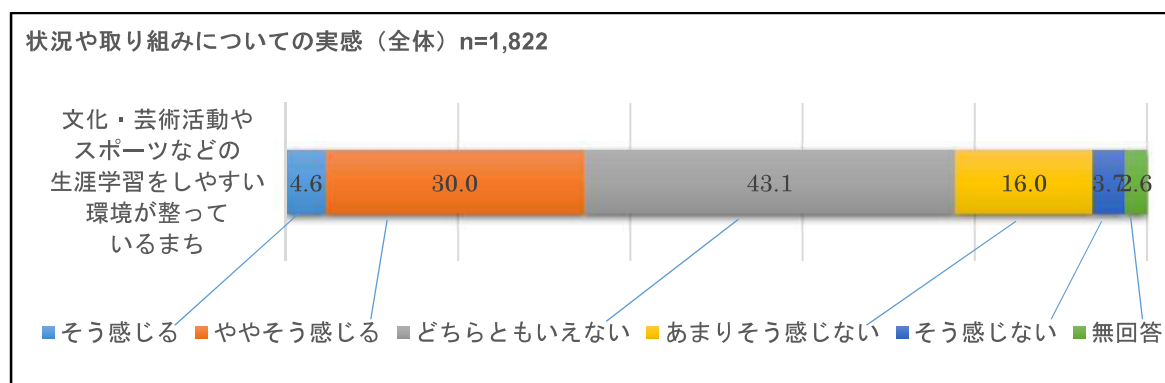
調査結果によると「状況や取り組みについての実感」の設問において「文化・芸術活動やスポーツなどの生涯学習をしやすい環境が整っているまち」と「感じている」は全体の34.6%、一方、「感じていない」は19.7%の方が回答しています。全体では23項目の状況や取り組みの中で8番目の高評価であります。(グラフ4)

詳細を見ると、「感じている」の回答の中でも、男女・年齢別では、男性の18～29歳44.7%、女性の18～29歳40.2%、75歳以上の方が40.7%と高数値を示しています。一方で、男性の60～64歳24.5%、75歳以上の方が20.9%と低数値を示しています。男女とも18歳～29歳が高いのに対し、75歳以上における男女の感じ方は大きく異なります。これは利用している環境が全く異なるものと推測されます。(表7)

次に、地域別にみると、青木地域41.0%、戸塚地域39.7%と高数値を示しています。一方で、芝地域29.5%、鳩ヶ谷地域28.5%と低数値を示しています。(表8)

グラフ4

単位：％



第2章 現状と課題

【状況や取り組みについての実感「そう感じる」「ややそう感じる」と回答した割合（男女・年齢別）】 単位：％

表 7	全体	18～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65～74	75以上
文化・芸術活動やスポーツなどの生涯学習をしやすい環境が整っているまち（男）	34.6	44.7	30.2	35.3	33.8	24.5	30.3	20.9
文化・芸術活動やスポーツなどの生涯学習をしやすい環境が整っているまち（女）		40.2	35.6	38.4	33.3	31.5	34.1	40.7

【状況や取り組みについての実感「そう感じる」「ややそう感じる」と回答した割合（地域別）】 単位：％

表 8	全体	中央	横曽根	青木	南平	新郷	神根	芝	安行	戸塚	鳩ヶ谷
文化・芸術活動やスポーツなどの生涯学習をしやすい環境が整っているまち	34.6	29.7	37.7	41.0	35.4	33.3	31.3	29.5	39.6	39.7	28.5

「今後さらに力を入れて（充実させて）ほしいもの」から(23項目のうち上位5項目を選択)

調査結果によると「今後さらに力を入れて（充実させて）ほしいもの」の設問において「文化・芸術活動やスポーツなどの生涯学習をしやすい環境が整っているまち」は全体では23項目中11番目で、16.2%の方が回答しています。(グラフ5)

詳細を見ると、男女・年齢別では、男性の18～29歳31.6%、40～49歳の方が21.8%と高数値を示しています。一方、男性の75歳以上9.3%、女性の50～59歳11.1%、60～64歳の方が11.0%と低数値を示しています。(表9)

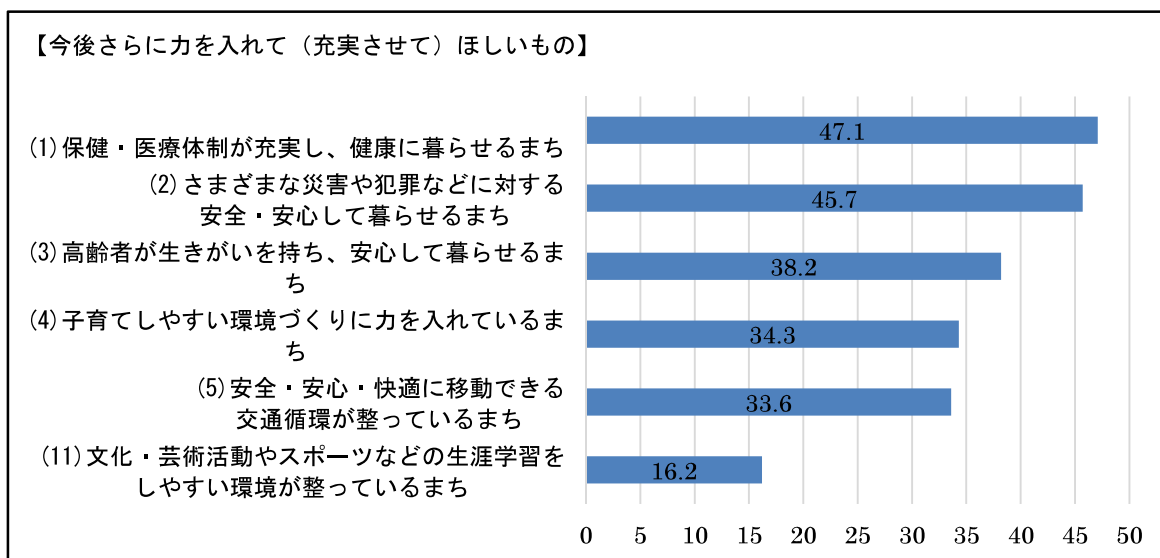
次に、地域別にみると、中央地域22.5%、戸塚地域24.3%と高数値を示しています。一方、芝地域は環境が整っていると予測されるため9.5%と低数値を示しています。(表10)

このことから、保健・医療や安全・安心など生命の危機に関する取り組みの更なる充実を求めている方が多い一方で、若い世代の方は文化・芸術活動やスポーツなどのしやすい環境の更なる充実を求めている傾向も見受けられます。

第2章 現状と課題

グラフ5

単位：％



※（）内数値は％の高い順の順位を示しています

【今後さらに力を入れて（充実させて）ほしいもの（男性・年齢別）】

単位：％

表 9	全体	18～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65～74	75 以上
文化・芸術活動やスポーツなどの生涯学習をしやすい環境が整っているまち（男）	16.2	31.6	14.2	21.8	17.6	18.4	15.1	9.3
文化・芸術活動やスポーツなどの生涯学習をしやすい環境が整っているまち（女）		13.1	19.9	17.4	11.1	11.0	15.6	12.7

【今後さらに力を入れて（充実させて）ほしいもの（地域別）】

単位：％

表 10	全体	中央	横曽根	青木	南平	新郷	神根	芝	安行	戸塚	鳩ヶ谷
文化・芸術活動やスポーツなどの生涯学習をしやすい環境が整っているまち	16.2	22.5	16.1	17.3	14.8	16.2	13.6	9.5	16.0	24.3	14.0

(2) 分析結果から見えてきた課題

文化芸術の場の創設や提供

川口市の良いところとして、文化芸術やスポーツの場としてよりも、日常生活の利便性を支持している方が多く見受けられます。また、良くないところについて、川口市外で勤務している方は、市内で文化芸術やスポーツをする場が乏しいと感じている方が多く見受けられます。全体的には、文化活動の場が豊富であると感じている方より乏しいと感じている方が多く見受けられることから、もっと気軽に参加しやすい環境づくりとして文化芸術活動や文化芸術鑑賞が行える機会や場所等の創設や提供が求められています。

文化芸術環境の更なる充実や整備

川口市の状況や取り組みについての実感として「文化・芸術活動やスポーツなどの生涯学習をしやすい環境が整っているまち」と「感じている」方が3割半ばで23項目中8番目と高い実感を得ています。

また、今後さらに力を入れて（充実させて）ほしいものとして、「文化・芸術活動やスポーツなどの生涯学習をしやすい環境が整っているまち」を1割半ば強の方があげています。この傾向は、男女共に若い世代に強く、地域的には、戸塚地域の方が特に強い傾向が見受けられます。更なる文化芸術活動などの生涯学習をしやすい環境の整備が求められています。

文化芸術・生涯学習施設の充実

川口市の好きな場所、もの、行事について、川口総合文化センター・リリアは好きな場所として3割弱の方があげており、文化芸術振興の一翼を担っていると考えられます。一方、アートギャラリー・アトリアを好きな場所としてあげている方は1割にも届いておりません。これは、その他の生涯学習・社会教育施設にも同じ傾向が見受けられます。アートの発展拠点としてのアートギャラリー・アトリアを含め、文化芸術・生涯学習施設の充実が求められています。

その他の自由記述から

文化芸術に関わるイベント・行事等は市中心地に偏っているなど、市域各地域に格差があり、交通アクセスによっては参加が困難であるとの意見があります。その要因として、文化芸術施設が川口駅周辺に集中していることを指摘される意見があります。一方、市外に通勤する方の中には、退職後、地域のスポーツや文化活動に参加し、地域に根ざした生活を望んでいる方もいます。

全体に、文化芸術の推進がうるおいある魅力的なまちづくりに寄与するものである

ことを示しています。

3 文化事業参加者・利用者アンケートからの現状と課題

前述の「市民意識調査」は、市政全般について調査するものであり、その中で市政における文化芸術行政について現状把握するために分析したものです。ここでのアンケートは、市民の方々が文化芸術に対してどのように考えているか、どの程度必要性を感じているのか等調査するため、平成28年～平成29年にかけて、コンサートや文化祭など文化芸術活動に参加した人を対象に調査を行いました。調査数 2,260、有効回答数 621、有効回答率 27.5%です。

(1) 現状

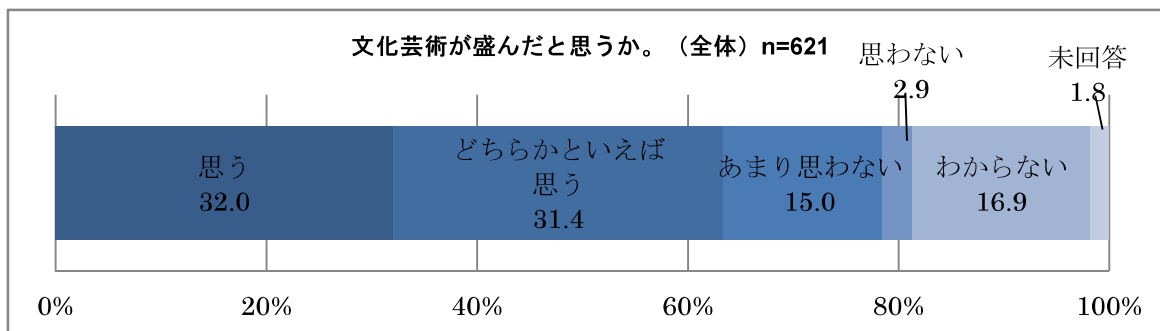
①「川口市を文化芸術が“盛んなまち”だと思うか」から（5者選択）

調査結果によると、川口市が文化芸術が盛んだと“思う”または“どちらかといえば思う”と感じている人は63.4%と高い数値を示しています。（グラフ1）

全体では、6割以上の方が「盛んだ」と感じている反面、市内の21.3%の方が文化芸術が盛んだと“あまり思わない”または“思わない”と感じており高い数値を示しています。（グラフ2）

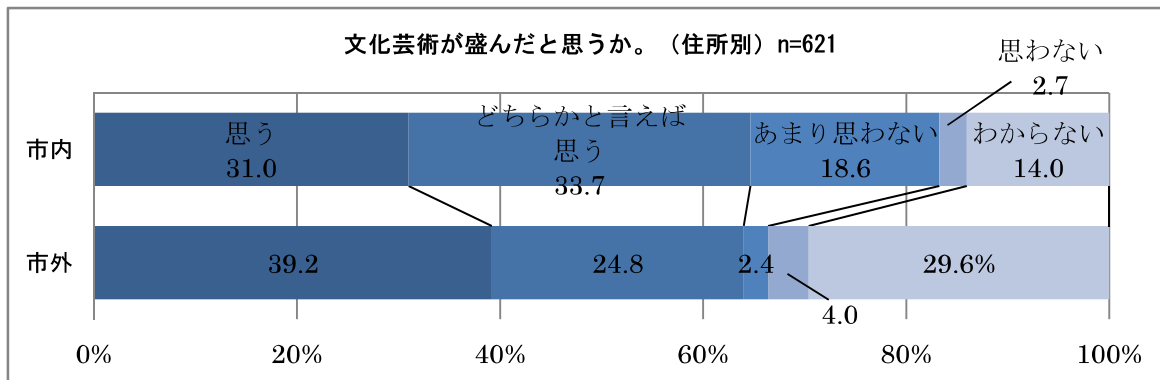
グラフ1

単位：%



グラフ2

単位：%



第2章 現状と課題

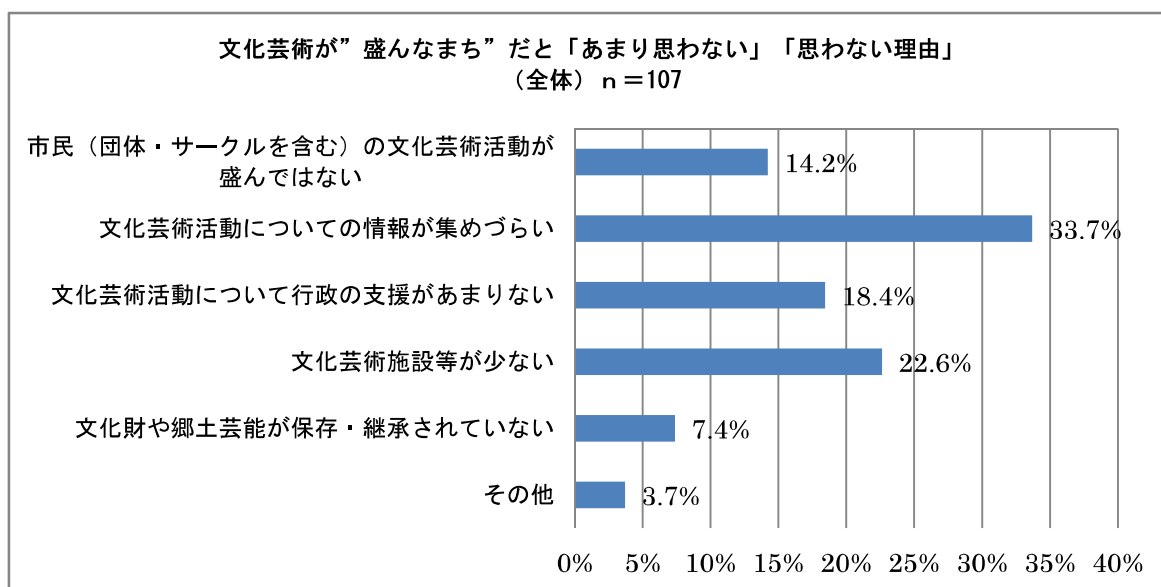
①-2 (複数回答可)

上記で“あまり思わない”または“思わない”と答えた人に対して、なぜそう思うのか聞いたところ、33.7%が「文化芸術活動についての情報が集めづらい」、22.6%が「文化芸術施設が少ない」、18.4%が「文化芸術について行政の支援があまりない」と続いています。(グラフ3)

詳細をみると、男性の年齢別では、20代～50代はほかの年齢に比べ、「情報が集めづらい」と感じていることが見受けられます。対して、女性は、盛んだと思わない理由が年代によって様々であると感じていることがわかります。(グラフ4・5)

グラフ3

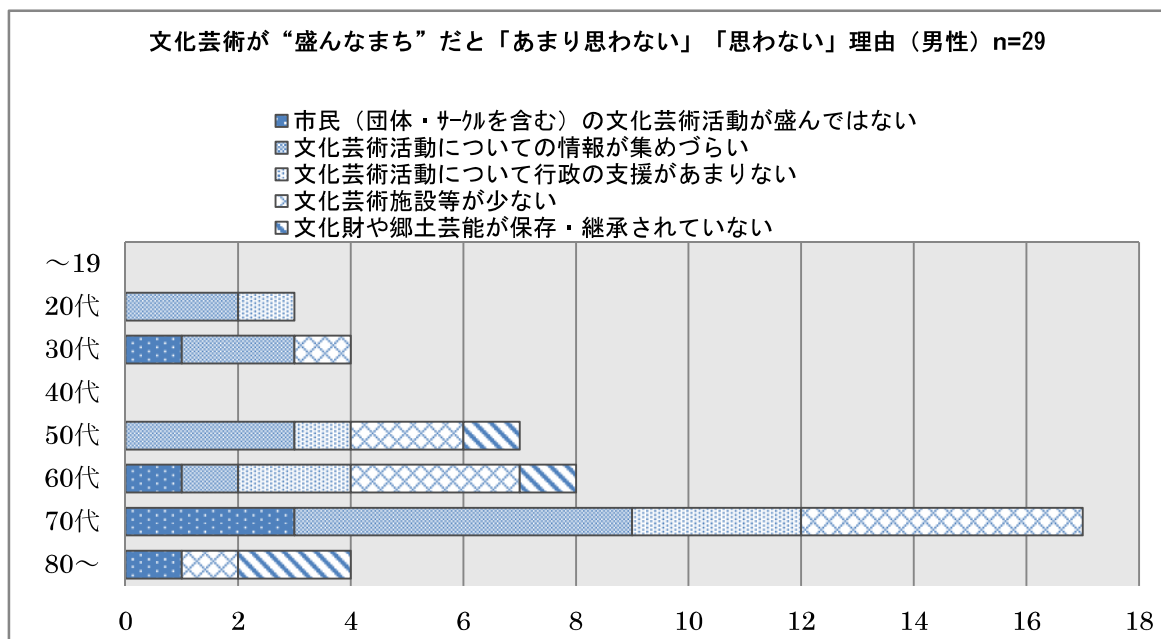
単位：%



第2章 現状と課題

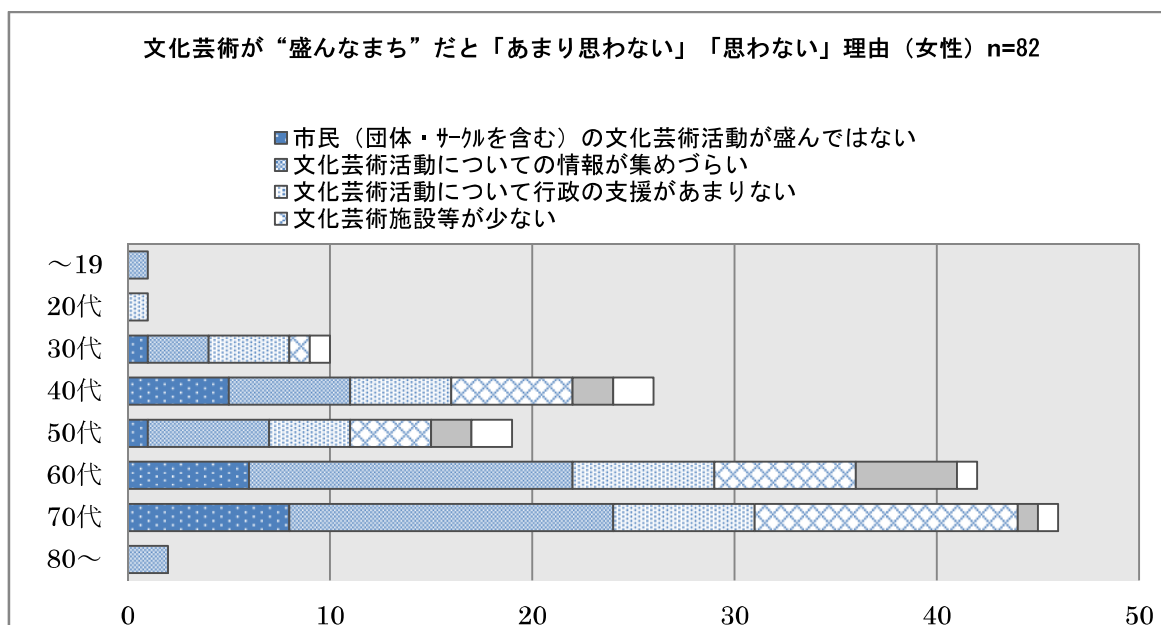
グラフ4

単位：％



グラフ5

単位：％



②この1年間に市内の文化芸術活動に参加したか。（2者選択）

調査結果によると「参加した」人は 58.8%で「参加していない」人の 38.6%より上回っています。（グラフ6）

詳細をみると男女別では、女性は 63.7%参加しているのに対し、男性は 49.7%と参加率に開きがあります。男性の 20、30、50 代を見てもほかの年代に比べ、参

第2章 現状と課題

加率が著しく低いことが見受けられます。(表1)

「参加していない」理由を見てみると「時間に余裕がない」「文化芸術活動の情報がない」などが高い数値が示されています。年齢別では、20代～50代の働き盛りの年代では、時間がなかったり文化芸術活動の情報を集められていないことが憶測されます。反対に定年を過ぎた60～70代では、参加率が上がっている傾向が見受けられます。仕事をやめ、時間に余裕ができてから趣味の時間として文化芸術活動を始める人がいるとも推測されます。どの年代でも「文化芸術活動の情報がない」と感じている人が多いことが見受けられます。(グラフ7・8)

グラフ6

単位：%

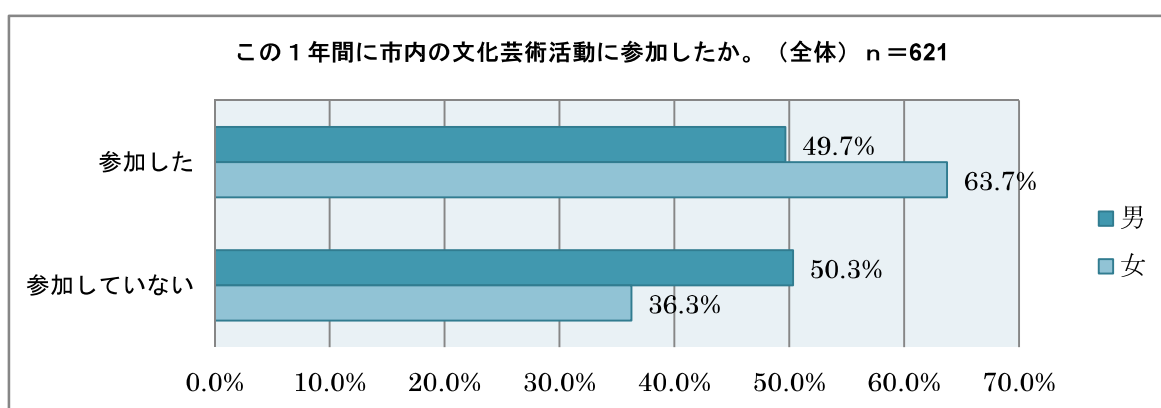


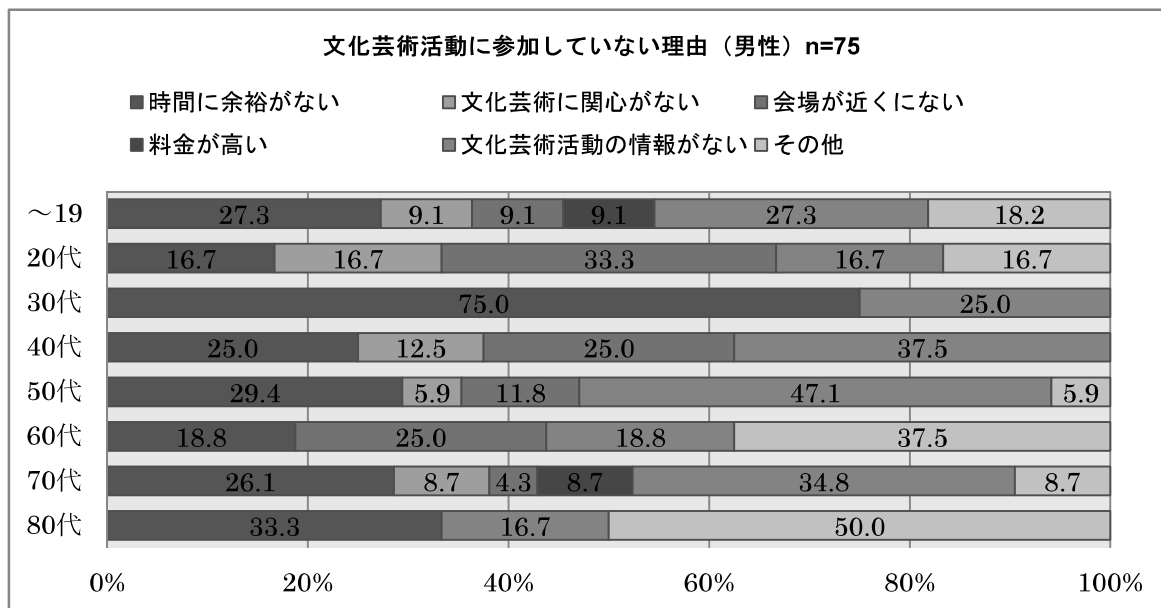
表1【この1年間に市内の文化芸術活動に参加したか。(性別・年代)】単位：%

	～19	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80～
参加した(男)	40.0	<u>28.6</u>	0.0	<u>36.4</u>	<u>27.8</u>	51.4	62.0	50.0
参加した(女)	60.0	57.1	45.9	48.4	46.4	59.8	76.5	67.4

第2章 現状と課題

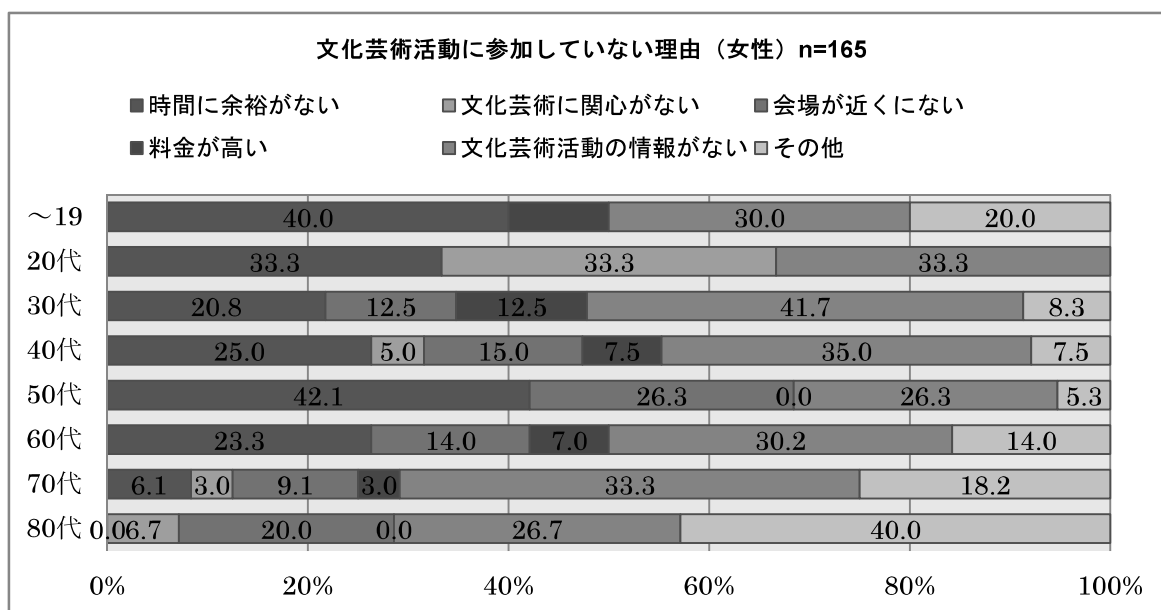
グラフ7

単位：％



グラフ8

単位：％



③今までに市内の文化施設を利用したことがあるか。（複数回答可）

調査結果によると、市内の文化施設として、71.3%の人が「川口総合文化センター・リリア」、57.0%の人が「公民館」を利用しており、「川口総合文化センター・リリア」は駅から近くアクセスが良く、「公民館」は自宅の近くなど通いやすいため利用している人が多いと考えられます。しかし、「川口総合文化センター・リリア」では予約がとりづらい、「公民館」はバリアフリー化が進んでいないという意見もみられます。

第2章 現状と課題

一方、アートギャラリー・アトリアは17.4%と利用したことがある人は他に比べ低い数値です。(グラフ9)

③-2 (複数選択可)

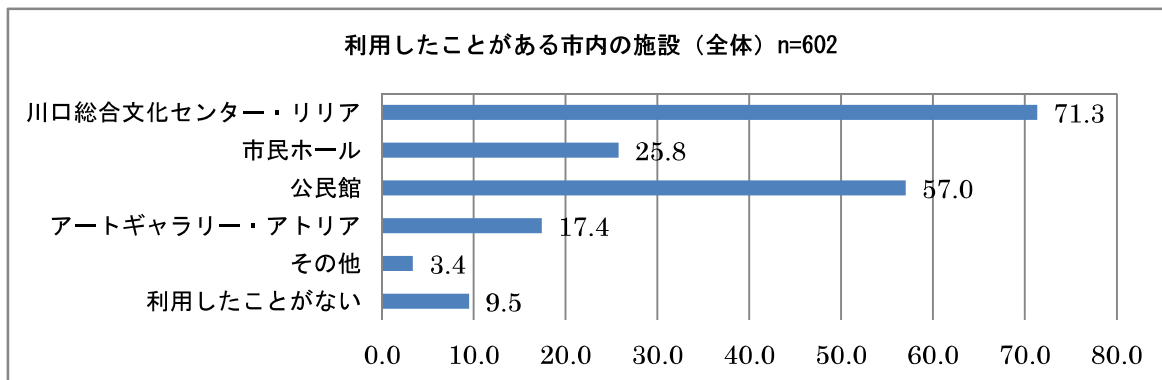
施設の利用満足度は77.5%が「どちらかと言えば満足」または「満足」と回答しており高い数値を得ています。満足度については、性別別、住所別ともに大きい差はありませんでした。(グラフ10)

③-3 (複数回答可)

市内施設を利用した方で、「やや不満」または「不満」と回答した13.6%の方に対し、何を必要としているかを調査したところ、市内の方は、「既存の施設・設備の改修」を望んでいる方が男女ともに多い傾向があり、市外の方は「利用料金を安くする」ことを一番望んでいるという違いが見受けられました。(グラフ11)。

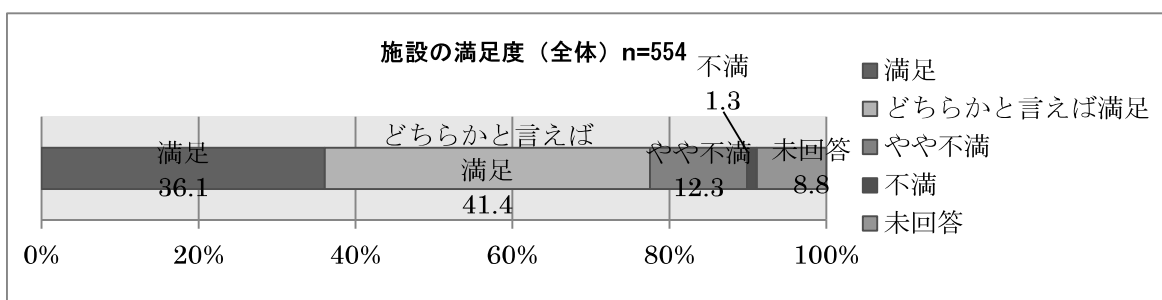
グラフ9

単位：%



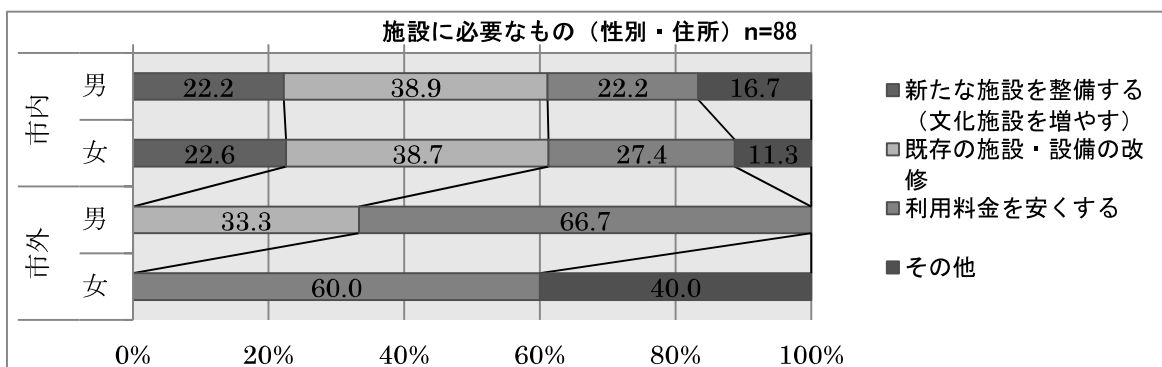
グラフ10

単位：%



グラフ11

単位：%



第2章 現状と課題

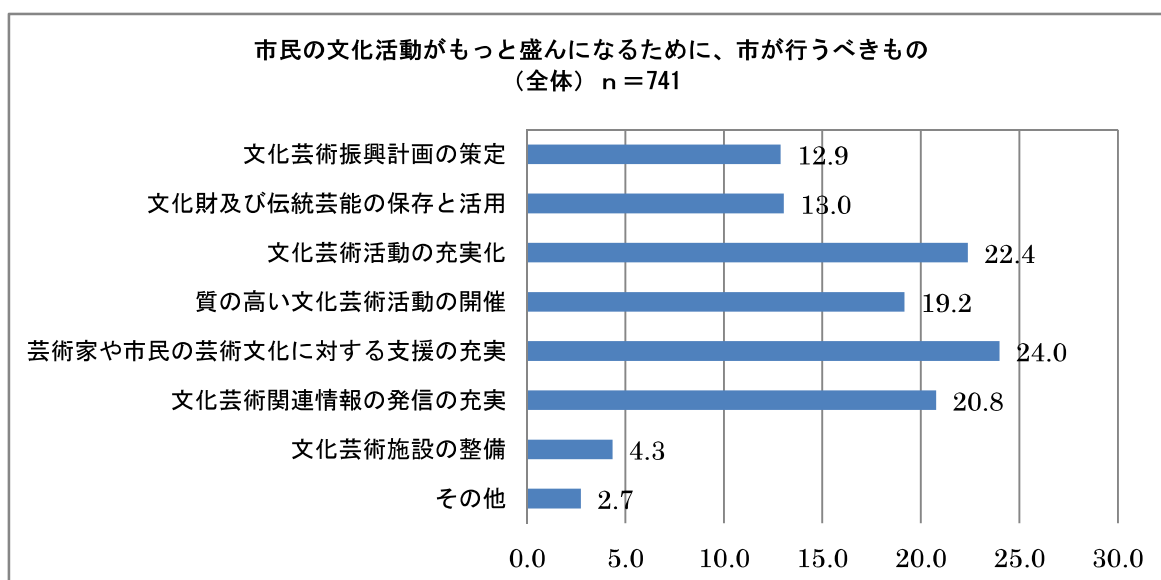
④市内の文化活動がもっと盛んになるために、市が行うものとして必要なもの。 (複数選択可)

調査結果によると、「芸術家や市民の芸術文化に対する支援の充実」が24.0%、「文化芸術活動の充実化」が22.4%、「文化芸術関連情報の発信の充実」が20.8%と続いています。(グラフ12)

全体では、男性の回答率は82.6%、女性の回答率は73.1%であり、女性に比べ男性の方が、行政が行うものの必要性を高く感じており、また、男女ともに60～70歳代で「文化芸術活動の充実化」「芸術家や市民の芸術文化に対する支援の充実」が高い割合を示しています。住所別については、市内外に大きな違いはありませんでした。(グラフ13・14)

グラフ12

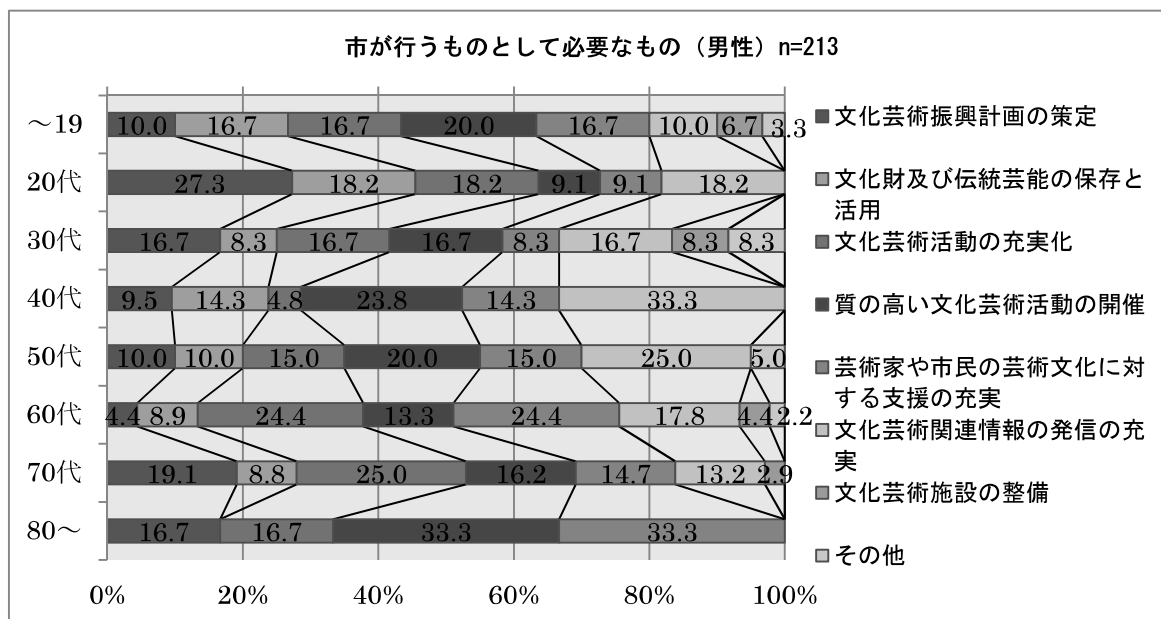
単位：%



第2章 現状と課題

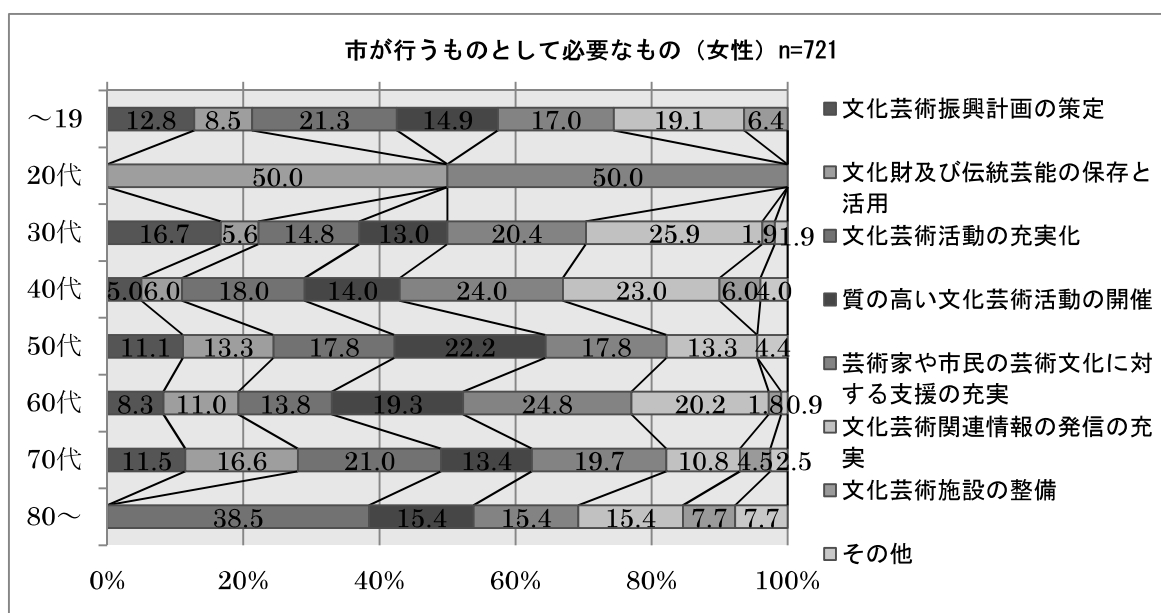
グラフ13

単位：%



グラフ14

単位：%



次に、質問同士をクロスした分析を行い、(5)(6)に示します。

⑤【川口市を文化芸術が“盛んなまち”と思うか】及び【この1年間に文化芸術活動に参加したか】またその理由

調査結果によると、川口市が文化芸術が“盛んなまち”と「思う」及び「どちらかと

第2章 現状と課題

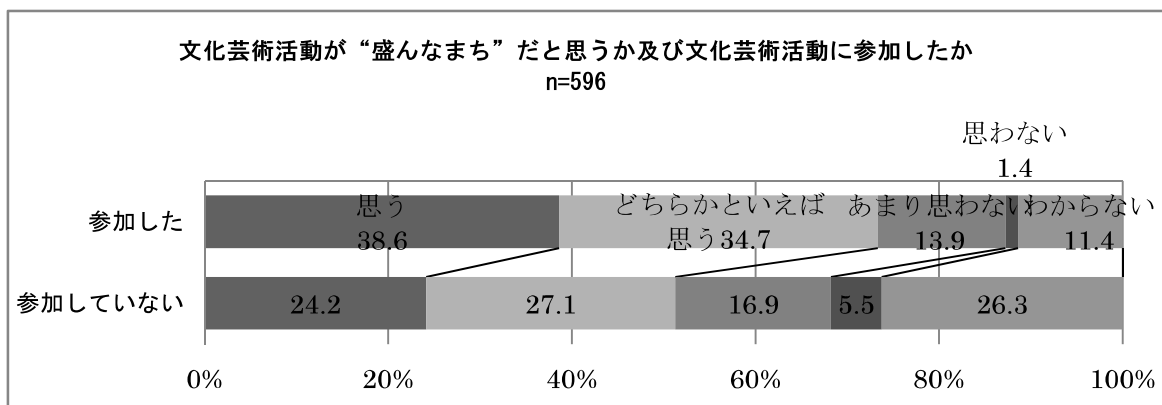
「例えば思う」を選択した人は、文化芸術活動に「参加してない」人に比べ「参加した」人の方が22.0ポイント高い数値になっています。

また、文化芸術活動が“盛んなまち”か「わからない」と答えた人は、文化芸術活動に「参加した」人より「参加していない」人の方が14.9ポイント高い数値になっており、文化芸術活動に「参加していない」という事実が“盛んなまち”か判断できにくいという経緯が示されています。(グラフ15)

文化芸術活動に「参加していない」人のうちその理由に「時間に余裕がない」と回答した人の63.0%が、文化芸術活動が“盛んなまち”だと「思う」及び「どちらかといえば思う」を選択しています。つまり、文化芸術活動は“盛んなまち”と思うが、時間に余裕がないため「参加していない」人が多いことがわかります。(グラフ16)

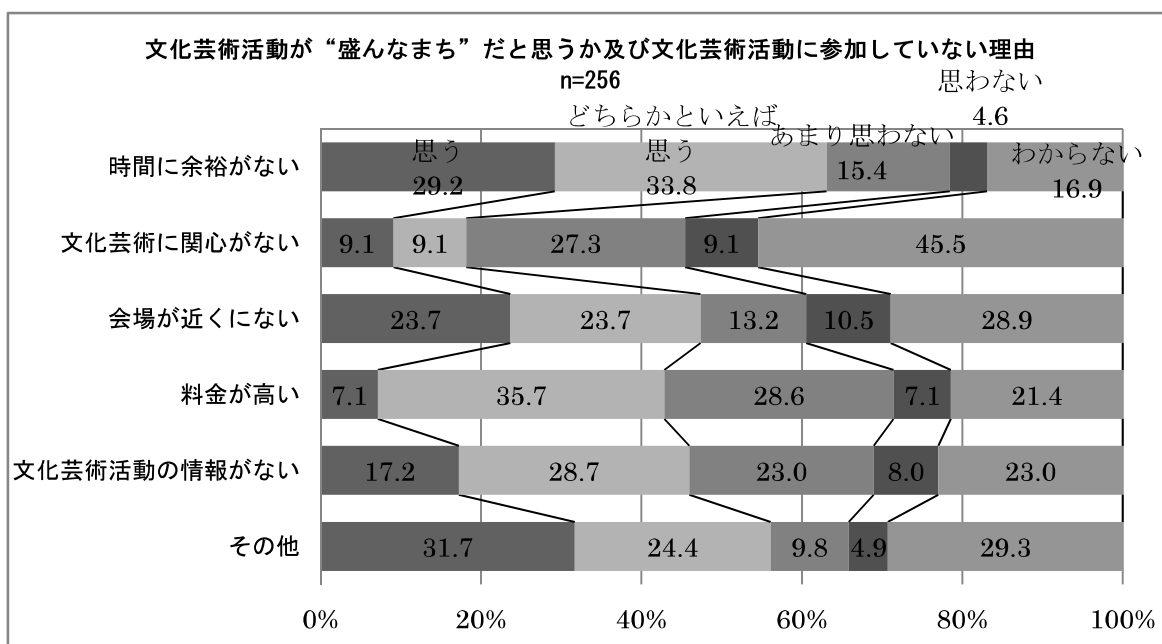
グラフ15

単位：%



グラフ16

単位：%



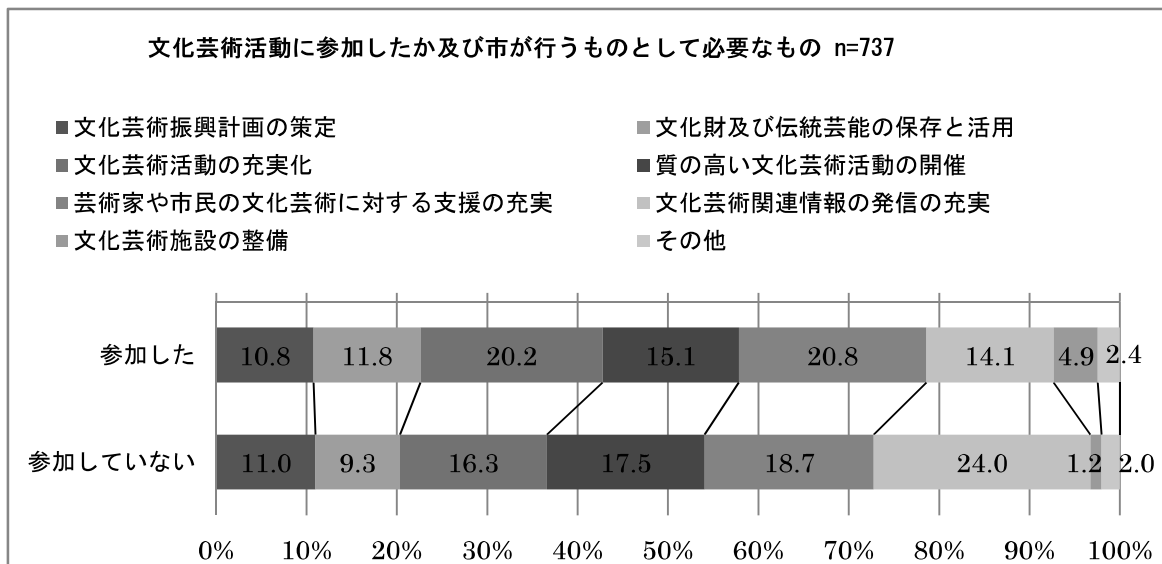
⑥【この1年間に文化芸術活動に参加したか】及び【市が行うものとして必要なもの】

調査結果によると、文化芸術活動に「参加していない人」が「必要としているもの」は、「文化芸術関連情報の発信の充実」24.0%と一番高く、「参加した」人の割合と比べても、9.9ポイントの差があり、文化芸術関連の情報を必要としていることがわかります。

対して、「参加した」人が必要としているものは「芸術家や市民の文化芸術に対する支援の充実」20.8%、「文化芸術活動の充実化」20.2%と続き、支援の充実や活動の充実であるとわかります。(グラフ17)

グラフ17

単位：%



2 課題

文化芸術活動の情報発信の必要性

今回のアンケートでは各質問項目で「文化芸術活動の情報」について不満を感じている人が見られました。①-2では文化芸術が盛んでないと感じている人のうち、33.7%の人が「文化芸術活動の情報が集めづらい」と感じており、②-2では1年間に市内の文化芸術活動に参加していない人のうち、40.5%の人が「文化芸術活動の情報がない」と回答しています。また、自由意見でも、情報発信を必要とする意見が見られました。よってこれらから満足できていない理由は、情報を得る手段が少ないことと予想さ

第2章 現状と課題

れ、情報を得る手段を増やしていくことが求められています。

現在、行政の主な広報手段として「広報かわぐち」や「市ホームページ」、ポスター、チラシなどが挙げられます。20代～50代の仕事に追われ忙しい働き盛りの世代はなかなか、ゆっくり見る時間が無いのが現状だと想定されます。情報を得る手段や、情報がないと考える人たちを減らし、情報発信の充実につなげることが求められています。

既存施設の見直し

本市の特徴として、駅前でアクセスの良い「川口総合文化センター・リリア」、各地域に多く配置されている「公民館」、商業施設のすぐ隣にあり、家族連れが多く訪れる「アートギャラリー・アトリア」など文化の発信拠点となる施設が多くあります。「文化芸術が“盛んなまち”だと思う」数値が高い理由は、この施設が多数ある点や設置に対する満足度が高いことから考えられます。

その一方で、自由意見を見てみると既存施設の改修を求めている人が多いことがわかります。その他にも、施設の使用方法の見直しや使用料の見直しを求める意見もありました。

文化芸術活動の充実化

上述のとおり文化芸術活動の情報を充実させていく必要がある一方で、すでに文化芸術活動に参加している人は、十分に情報を得ている人もいます。その人たちは、情報の充実ではなく文化芸術活動に対する支援や文化芸術活動の充実を求めています。積極的に文化芸術活動の場を提供することや様々なジャンルの文化芸術イベントを提供するなど行政側から働きかけ、多くの機会を提供していくことを求められています。

また、時間に余裕がなく平日などに文化芸術活動に参加できない人のために休日に行う文化芸術活動や、反対に、平日の夜間開催のイベントなど、様々なライフスタイルにあう、誰もが参加しやすい機会を増やしていかなければなりません。

その他自由意見から

その他意見では、施設の改修を求める声が多く挙がりましたが、発表の場を求める意見もありました。現在、本市では、川口市民会館が閉館し、川口駅付近での発表の場が川口総合文化センター・リリアのみとなっています。川口総合文化センター・リリアは市外の団体も多く利用されるため、高倍率となっており、市内の方々が活動や発表に使いつらい状態です。市民が活動しやすい環境づくりが求められています。

4 計画策定における課題

ここでは、これまでの「総合計画のための市民意識調査」、「文化事業参加者・利用者アンケート」から、抽出された課題の中から頻出の高いものを示します。

1 「情報」

「文化芸術活動に関わる情報が少ない」、「情報を集める手段がわかりづらい」などの声が多あり、若年齢層、中年年齢層、高年齢層それぞれに適した情報収集手段や情報発信手段について検討が必要です。

2 「機会の提供」

「参加できるイベントが少ない」、「成果を発表する機会が欲しい」などの要望が多くあり、市民の誰もが等しく参加しやすいイベントの創出が必要です。

3 「保存と継承」

伝統文化の継承や本市の文化芸術を支えてきた文化芸術団体の高齢化に危惧される声があり、それぞれの団体が他の団体や企業などと連携することで更なる発展が見込まれ、新しい魅力につながると考えます。

4 「支援・補助」

「公民館等で活動する団体や芸術家、芸術への支援が足りない」との声に基づき、行政・企業等の支援や補助などの検討が必要です。

5 「興味・関心」

幼少期の体験が豊かな情緒を育てることから、文化芸術活動への興味や関心を幼い頃から、身近に感じられる土壌を作る必要があります。

6 「場所」

現在ある施設のあり方の見直しや新設を望む声、設備等への意見が多くあり、現在のあり方をまずは検討する必要があります。

これらの課題に取り組むため、次の章において指針を定め各施策を推進していきます。

第3章

基本理念と目標

1 基本理念

これまで、本市には、文化芸術に係る統括的な指針や基本的な計画はなかったものの、先に示したとおり、「川口市第5次総合計画」や「川口市教育振興基本計画」において目標を定め、体系的に文化芸術事業を実施してきました。平成28年3月に「川口市文化芸術振興条例」を制定するにあたり、**下記に示したとおり**、基本理念を定めています。この計画は、この基本理念に基づき、本市独自の計画となるよう各取組や各事業を整理して策定しています。本市の風土や歴史ある産業から「ものづくりのまち」が形成されたように、本市独自の生活文化や経済産業の環境が、「文化活動の盛んなまち」を生んだものと考えています。

特に、本市の特色である、利便性の高い立地環境、町会自治会組織の充実とそれを支えた公民館の設置、製造業を中心とした中小企業や造園・植木産業の集積、バランスの良い市街地と緑地の環境など多くの地域資源が、文化芸術活動に影響しています。これらの特色も踏まえ計画に反映していきます。

基本理念

- 1 文化芸術活動を行う者の自主性及び創造性を十分に尊重します。
- 2 市民の文化芸術活動が活発に行われるような環境を醸成することを旨として文化芸術の発展が図られるよう配慮します。
- 3 文化芸術を創造し享受することが市民の権利であり、市民が等しく文化芸術を鑑賞し、参加し、創造することができるような環境整備を図ります。
- 4 地域の伝統的な文化芸術が、将来にわたり引き継がれるよう配慮します。
- 5 文化芸術活動を行う者その他意見が反映されるよう配慮します。

2 基本目標

上記の基本理念を踏まえ、第2章 4で示した「計画策定における課題」に基づき、下記のとおり基本目標を定めました。

基本目標1 地域の特性を活かしたまちづくり

市民一人ひとりが等しく、生きがいと心豊かなうるおいある生活が送れるよう、文化芸術活動に参加する機会を創出・提供します。市民のニーズにあった、文化芸術の情報収集に努め、だれもが等しく享受できるよう情報発信に取り組みます。

また、市民・企業・行政が三位一体となって文化芸術を支援する仕組みづくりを確立し文化芸術で潤いのある豊かなまちづくりを推進する牽引力を創出します。

基本目標2 文化芸術を支える人材の育成及び支援

次世代を担う子供や青少年の豊かな想像性と感性を育むために、文化芸術活動の環境整備を進め、支援します。文化芸術を継承し、創造していく担い手として若手芸術家を支援します。

また、本市に数多く残される伝統文化を将来にわたって継承していくため、後継者の育成・支援をします。さらに、本市が有する文化資源や人材の魅力を再発見し、新たな魅力を発信するため、関係団体や個人が連携して取り組む仕組みづくりをおこなっていきます。

基本目標3 文化芸術に触れる環境の整備

子どもや青少年の様々な文化芸術の体験や感動は、生涯にわたり、文化芸術を理解する基盤となることから、多様な文化芸術に接する機会を拡げるとともに、環境の整備を図ります。学校教育や生涯学習の場における芸術鑑賞、体験学習、芸術家派遣等文化芸術に触れる機会の充実に努めます。また、多くの市民が参加、鑑賞できるイベント等の充実に図り、市民主体の文化芸術活動や公民館等を拠点に展開される地域活動を支援します。

文化の発展拠点である川口総合文化センター・リリアや、アートの発展拠点であるアートギャラリー・アトリア、生涯学習活動の拠点である公民館などにおいて、優れた文化芸術活動に親しみ、活性化を計るための鑑賞や創作体験の場を提供します。ハード・ソフトの両面から施設の整備や充実に図り、より多くの方々に利用できるよう取り組みます。

3 施策の体系

これまでの市民意識調査や、文化事業利用者・参加者アンケートから抽出された課題を解決するための施策を「川口市文化芸術振興条例」の基本施策に基づき体系化するとともに、前術した基本目標を達成するべく、各施策を実践するための取組を整理しました。この取組には、これまで実行してきた事業のほか、基本目標を達成するための手段としての事業をあらたに追加しています。次章からは、この体系化された施策を元に、実行する取組を示していきます。

基本目標 1 地域の特性を活かしたまちづくり

施策 1	誰もが文化芸術を鑑賞し、又は文化芸術活動に参加する機会の提供及び充実
市民一人ひとりが生きがいと心豊かな生活を送るため、身近な場所で多彩な文化芸術に触れる機会を提供します。また、ニーズに応じた文化芸術の情報を発信できるよう情報収集に取り組みます。	
<ul style="list-style-type: none"> —— ①鑑賞事業や文化芸術を身近に接する機会の提供 —— ②ニーズに応じた文化芸術の情報収集・発信の充実 —— ③文化芸術活動支援の充実 —— ④高齢者、障害者の文化芸術活動の促進 —— ⑤文化芸術活動の場及び発表の場の提供 	

施策 2	地域に根ざした文化芸術を活用したまちづくりの推進
市民・企業・行政が三位一体となって文化芸術を支援する仕組みづくりを確立し、文化芸術でうるおいのある豊かなまちづくりを推進する牽引力を創出します。	
<ul style="list-style-type: none"> —— ①市民・企業との協働 —— ②歴史的文化遺産の有効活用 —— ③歴史的文化遺産等の情報発信の充実 	

基本目標 2 文化芸術を支える人材の育成及び支援

施策 3	文化芸術活動を担う者及び次代の担い手の育成及び支援
次世代を担う子供や青少年の豊かな創造性と感性を育むための文化芸術活動の環境整備を進めます。また、文化芸術を継承し、創造していく担い手として、若手芸術家を支援します。	
<ul style="list-style-type: none"> —— ①文化芸術活動を支える担い手の育成・支援 —— ②若手芸術家の支援 —— ③青少年や若者の文化芸術に触れる機会の充実 —— ④地域の文化芸術を支える人材の育成 	

第3章 基本理念と目標

施策 4	文化芸術活動の継承及び保護の推進
<p>本市には、長い歴史や風土の中で育まれてきた固有の伝統芸能が数多く残されています。少子高齢化が進む中、この貴重な伝統文化を将来にわたって継承していくため、後継者の育成・支援を行っています。また、伝統文化のすそ野を広げ、理解を深める取組を行っています。本市が有する文化資源や人材の魅力を再発見し、新たな魅力を発信をするため、関係団体や個人が連携して取り組む仕組みづくりをおこなっていきます。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ——①関係団体等との連携強化 ——②伝統文化に関する学習機会の充実 ——③歴史的文化遺産の有効活用 ——④伝統文化の保存・継承・活用 ——⑤顕彰制度の充実 ——⑥伝統文化を支える担い手の育成・支援 	

基本目標 3 文化芸術に触れる環境の整備

施策 5	教育活動及び生涯学習の場における文化芸術への支援
<p>子どもや青少年の様々な文化芸術の体験や感動は、生涯にわたり文化芸術を理解する基盤となることから、多様な文化芸術に接する機会を上げるとともに、環境の整備を図る必要があります。こうしたことから、学校教育や生涯学習の場における芸術鑑賞、体験学習、芸術家派遣等文化芸術に触れる機会の充実に努めます。また、多くの市民が参加、鑑賞できるイベント等の充実を図り、市民主体の文化芸術活動や公民館等を拠点に展開される地域活動を支援します。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ——①文化芸術に関する学習機会の充実 ——②教育機関等との連携強化 ——③郷土学習の推進 ——④鑑賞事業や文化芸術を身近に接する機会の充実 	

施策 6	文化芸術施設の充実及び活用の推進
<p>文化の発展拠点である川口総合文化センター・リリアや、アートの発展拠点であるアートギャラリー・アトリアなどにおいて、優れた文化芸術活動に親しむ機会を提供することで、文化芸術意識の向上を図ります。アートギャラリー・アトリア事業の更なる内容充実を図り、市民の文化芸術の鑑賞や創作体験の場を提供します。市民の幅広い文化芸術活動の活性化を図るため、ハード・ソフトの両面から施設の整備・充実を図り、作品発表の場としてより多くの方々に利用できるよう取り組みます。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ——①文化の発展拠点であるリリア、アトリアの整備・充実 ——②文化芸術関連施設の適切な管理・運営 ——③文化芸術に関する情報機能の充実 ——④生涯学習活動の拠点である公民館の整備・充実 	